

谷津田で田植え体験 - 大椎小学校の子どもたち・先生方より -

5月28日に小山町の学校田んぼで田植え体験をした大椎小学校5年生の子どもたちと先生方から感想文をいただきましたので、ご紹介します。写真は保護者のみなさんが作成したクラスごとの看板です。田んぼ名は子どもたちの発案です。



5年1組:レインボー

谷津田の風景がすがすがしい気持ちにしてくれました。気持ちの良い風に吹かれながら、田植えができたことはとてもよかったです。子ども達にとって田んぼの中に入った時の感触は忘れられないことでしょう。また苗を分ける難しさ、まとめて植える大変さなどがよくわかりました。これから成長していく苗の様子をみながら、楽しみにしていきたいと思います。ありがとうございました(山田 由美子先生)。

ぼくたちは、谷津田で田植え・自然観察の2つのことを学びました。田植えでは苗の持ち方や植え方、自然観察では生き物の名前などを、ていねいに教えていただきました。田植えの時、どろに足がはまって大変だったけど、しっかり植えることができました。水がちよっとつめたかったけど楽しかったです。こんどは稲かりなので、またがんばりたいです(K.T.)。

ぼくたちに、田植えの植え方をおしえていただきました。苗を植える間かくをあけるのがとてもむずかしかったです。苗を2~3本にわける時、ねっこが切れそうでとてもむずかしかったです。でも植え終わった時は、意外としっかりできてうれしかったです。虫をつかまえたり、何の虫になるかをおしえてもらってとてもおもしろかったです。いねかりのときもよろしくおねがいします(I.T.)。

ぼくは、田植えで農家の人たちがやっている苦労や熱心さなどたくさんのことを学ばせてもらい、とてもかんしゃの気持ちでいっぱいです。田んぼの水はあたたかいと思いましたが、つめたくてびっくりしました。田植えをやっているとあたたかくなってじょうずにできました。2、3本束にして植えるとき、たおれてしまいたいへんでした。けどとても楽しくできました。それに虫のことも教えてもらいありがとうございました(S.T.)。

田植えの時、ぼくらは自然のことや田んぼのことがよくわかりました。田植えでは苗を植えるのがとてもむずかしかったです。でも田植え終わった時には「やったー」と思いました。今度は稲かりをやらせてもらいます。ぼくらはせいっぱいがんばって、お米をつくる人の気持ちになって稲かりをしたいと思えます。どうもありがとうございました(N.S.)。

私たちは、こんなむずかしい田植えにびっくりしました。こしがいたくなったり、足がヌルヌルになったりしました。田植えでは、キヤーキヤーさけんだり、ころびそうになったりしましたががんばって協力してやることができました。田植えのときはありがとうございました(M.K.)。



5年2組:イネさんズ

私が初めて田植えをやったのは、小学校5年生の時でした。しかし、今回、谷津田のような広い場所で本格的に取り組んだのは初めてでした。まだまだ小さな苗がこれから秋の収穫に向けて少しずつ伸びるのかと思うと、私も楽しみです。米づくりひとつひとつの作業に苦労して取り組んだ分、おいしいお米ができると思います(田中 優子先生)。

ぼくは、初めて田植えという体験をしました。意外と田の深さがすごく、苗を植えるのにすごい大変でした。ぼくは、こんな苦労して、苗を育てているんだなと思いました。苦労していることを考えながらご飯を食べたいです(K.N.)。

田植えが思ったよりうまくいきませんでした。足がはまってぬけなくなってとてもこまりました。田植えをする人は、こんな大変なことを毎回のようになっていますすごいと思いました。とても楽しかったから、またやりたいと思いました。いねが早く大きくなってくれるとうれしいです(A.K.)。

初めて田植えをした時に一番大変だったことは、稲をまっすぐに植えることです。教えていただいたように植えてもすぐにたおれてしまい、土をもつてたてるのが大変でした。今後の成長の様子を楽しみます(K.T.)。

私は、谷津田に行って初めての田植えを体験しました。はだしになって、田んぼの中に入るとどろの中が深くてびっくりしました。こしが少しいたくなかったけど、昔は機械がなかったから、もっとつかれたのではないかな、と思いました。自然観察も楽しかったです(T.H.)。

ぼくは、田植えの前に、係員さんにわき水のところに案内してもらいました。そこは、植物の根の間からとても冷たい水がでていました。さらに、野生のサワガニもいてとても感動しました。谷津田は、とても自然がすばらしいところなんだなと思いました(H.Y.)。



5年3組:全力田んぼ

初めての田んぼの感触に何とも言えない表情を浮かべる子、自分なりの田植えのコツをつかみ友達に教える子... 子どもたちにとって、今回の田植えは、まさに「生きた学習」となった。この田植えを行うまで、谷津田の存在を知らなかった児童も少なくない。子どもたちの「ふるさと自慢、地域自慢」のひとつに谷津田の豊かな自然も加わっただろう(宮本 実実子先生)。

わたしは、機械でなら何回も田植えをした事があるけど、手で植えたのは初めてです。はだしでやって一番初めに感じた事は、田んぼの土はとてもやわらかくてきもちがいい事です。それに、みんなが歩いてきた深い場所に、いねを植えるのがすごくむずかしかったです(I.R.)。

小山町の谷津田の近くに住んでいる人は、田植えや稲かり、そのほかにももっといろいろな仕事をやっているんだなと思いました。小山町の人たちの苦労がわかりました。小さな苗から米ができていく様子を観察したいです。ありがとうございました (S.S)。

ばくは、田植えをして、いろいろなことがわかりました。田植えをする時の苦労や大変さがわかりました。自然の中でも、いろいろな発見がありました。自然1つ1つの大切さなどがわかりました。田植えでは、足がどろろの中でぶつぶつ入って気持ち悪かったです。でも楽しかったです。おいしいお米ができるといいです (M.I)。

わたしは、田んぼに入って最初上の方はぬるくて下の方は冷たかったので、今も水がわいているのかなと思いました。新せんな水でできた田んぼでお米をついたらおいしいだろうなと思いました。早く稲かりをして、自分たちでつくったお米を食べたいです (S.T)。

ばくは、生まれて初めて、田植えをしました。最初は、気持ち悪かったけど、YPPの方々に色々なことを教えてもらいました。教え方がとてもやさしくて、すぐ、全部おぼえました。とても楽しかったのでまた、田植えをしに行きたいです (K.K)。



5年4組:谷津田んぼ

谷津田にこれほど多くの自然が残っていることに何よりもびっくりしました。そして田植えをする時、田の中に左足、そして右足と入ってみると、本当に土が生きているという感じがわかるような気がしました。田植えを通して、土の自然についてあらためて考えさせられました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました (土屋 涼輔先生)。

わたしは谷津田で田植えをした時とてもこうき心にあふれていました。「はやくやりたいな。むずかしいのかな？」などと思っていました。実際にやってみると、思ったよりえが立たなくてむずかしかったです。土はとてもやわらかくてつめたい所もあったし、温かい所もありました。病気になるまいよ、いっぱい実をみのらせてほしいです (T.H)。

谷津田に行って一番心に残ったのは、自然観察でした。ふ段田んぼには行かないので、大きなサワガニやシュレーゲルアオガエルのあわにつつまれた卵、巨大タニシなどにはおどろきました。また、アカガエルの大きさにもびっくりしました。田植えは、ドロドロの土に苦労しました。足がはまり、動けなくなる事もありましたが、苗を植えられてよかったです (M.K)。

谷つだのみなさんへ わたしたちのためにおいそがしいなか、田うえのしかたなどをくわしくおしえてくださり、ありがとうございました。どろでまえへすすめず少し足がいたかったけど、楽しくできました (I.N)。

「田植えはした事あるけど…」と思いながら谷津田に行きました。でも機械ではなく手作業でした。田の中に入ると、足がきもちよくて、楽しかったです。こんな体験ができて、よかったです。自然もたくさんありとても気持ちよかったです (I.H)。

わたしは谷津田で田うえをしているんなことを学びました。田うえが大変なことや、生物を大切に思うことなどです。それは谷津田の農家の人たちや、サポーターの人たちがいたからだと思います。とても楽しく、いい思い出ができました。谷津田の人たち、今回はいい思い出をありがとうございました (T.K)。

谷津田いきもの図鑑 No.20

セミ

分類上、半翅目に属し、口は針状の管になっていて樹液を吸います。同じ口の形態をもった、カメムシ、アワフキムシ、ヨコバイ、ウンカ、アブラムシ、などが半翅目に属し近い仲間です。

身近にいるセミ

谷津田では、田んぼを挟んだ斜面林とその上の台地がセミの生息域です。千葉市近辺には、ニイニゼミ、ヒグラシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、が生息しています。いずれも日本全土に分布しているもので千葉周辺では極普通種です。近年は温暖化の影響とも言われていますが西の方から生息域を広げてきているクマゼミの声も時に聞けるようになってきました。

セミの生涯

セミの成虫はわずか1～2週間のはかない命とも言われます。しかし、セミの生涯を通して見ると幼虫期が長く昆虫の中では長命な昆虫ともいえます。セミは卵を枯木や樹皮下に産みます。孵化した幼虫は木を降って地中に入り根から樹液を吸い長い幼虫期を過ごします。幼虫期を地中で過ごす、地上に出て木に登り、幹、枝、葉裏などにしっかりつかまって羽化します。不完全変態でサナギにはならず幼虫から直接成虫になります(トンボやバッタの仲間と同じです)。成虫の飼育は意外に難しく長くは飼えないようで、成虫の寿命は実際には1～2週間よりもう少し長いのではないかと研究者もいます。身近なセミですが生態は意外に判っていません。幼虫期が地中で自然状態での観察が難しいのです。成虫になるまで7年と言う説があります。図鑑や百科事典にもそのように記載されたものがあります。現に私の家にある「旺文社学習図鑑昆虫(1982年発行)」にもアブラゼミの一生は7年ほどとあります。「平凡社 世界大百科事典(1971年発行)」でもアブラゼミとミンミンゼミは卵が産みつけられてから7年目で親になると記載されていますが、現在では温度や栄養状態によっても異なるようで近年の研究では次のように言われているようです。

- ・ ニイニゼミが産卵された年に孵化して成虫になるまで4～5年。
- ・ ツクツクボウシが翌年孵化してその後1～2年の幼虫期を過ごす。



ニイニゼミ羽化翌日



ヒグラシの羽化

- ・ アブラゼミが翌年孵化してその後3～4年の幼虫期。
- ・ ミンミンゼミが翌年孵化してその後2～4年の幼虫期。
- ・ クマゼミが翌年孵化してその後2～5年の幼虫期。
- ・ ヒグラシが産卵された年のうちに孵化することまでは確認されていますが幼虫期は不詳。

セミの鳴き声

セミが鳴くのはメスを呼び寄せるためで、オスしか鳴きません。でもよく聞くと一様ではなく様々な鳴き方をします。メスが近くに来た時の誘いの鳴き方・・・交尾誘導音・つなぎ鳴き・休息音・呼び交わし・妨害音・悲鳴音などがあるそうです。セミの大きな特徴はオスの腹部が楽器になっていることです。オスの腹の中には薄い膜の袋がゴム風船のようにふくらんで入っていて広い共鳴室を作っています。発音筋が振動を起こすとその両端に続く発音板(鼓膜)が音を出します。その音、そのものは弱いものですが共鳴室の空気が振動するので腹全体から音波が出て大きな音になる仕組みを持っています。さらに腹部を伸ばしたり、縮めたり、腹弁の隙間を変えることで音の調子を変化させて出しています。



アブラゼミ

セミのあれこれ

近年はニイニゼミの発生が少なくなりました。昔は手でも捕まえられるようなところにたくさんいたのですが最近では高い所で鳴いていて、見つけるのも捕まえるのも難しそうです。でも今年はニイニゼミが近年になく元気なようです。乾燥化が進んで減少しているとも言われていましたが少し安心しました。6月の多雨が幸いしたのかもしれませんが、羽化時に乾燥していると羽化に失敗する確率が高くなるとも言われています。ニイニゼミの幼虫は泥をかぶっていますが、何故か理由は判っていません。

千葉市をちょっと離れて茂原市にはヒメハルゼミが生息しています。南方系の小さなセミですが沖縄周辺、西日本以外では生息が局地的です。茂原の八幡神社の森で明治35, 6年頃発見、採取されて学名に「*chibensis*」と千葉の意が冠せられた由緒ある産地で国指定文化財に指定されています(新潟県能生町、茨城県笠間市も北限生息地で国指定文化財となっている)。松尾芭蕉の「閑さや 岩にしみいる 蝉の声」は立石寺という山寺で詠まれました。この蝉がニイニゼミであるか、アブラゼミであるかで齋藤茂吉らで大論争が occurred。齋藤茂吉はアブラゼミだと主張して譲りませんでした。実際に詠まれた時期に立石寺へ行って、この時期山寺周辺ではアブラゼミはでておらず、ニイニゼミと確認され、論争に決着がついたと言うことです。(参考文献等: 旺文社学習図鑑「昆虫」、平凡社世界大百科事典、HP「セミの家」)

(網代 春男)

コラム: 私とセミ 網代春男

小学校の夏休みの宿題から昆虫採集が消えて随分長い年月が経ちました。昆虫採集と言えばその相手はセミ、トンボでした。オス、メス揃えて身近なセミを全部揃えるというのはそれなりに難しかっただけに夢中になったものです。当時はニイニゼミの発生が多く、低いところにとまっていた一番捕まえやすいセミでした。ついでヒグラシ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、と捕らえるのが難しくなりました。ミンミンゼミを捕まえるとその夏休みの宿題は完成したような気分になりました。また、ツクツクボウシが鳴き出すと楽しかった夏休みももう終わりだと言うちょっと寂しい気分になったりもしました。

当時はセミ捕り、トンボ捕り(釣り)はひとつの独立した子どもの遊び、文化でもありました。鳥もちを使ってセミやトンボを捕る子ども達もいました。たくさん捕れるのですが虫は傷めるし、髪の毛に鳥もちをつけると髪を切らないとならないし、服につけたりと、べたべたしてあとの始末が厄介でした。私が好きだったのは木の枝の三叉のところや竹を丸くした部分にオニグモやコガネグモの網を張って捕る方法でした。これだと虫を汚すこともなく捕れ、竹の長い棒の先につければ高いところに止まっているセミも捕ることが出来ました。また、セミ捕り用の網も手作りしました。捕虫網はセミを捕るには網が大きすぎて隙間が出来てしまい逃げられてしまいます。高いところは届かないし、枝葉が込み入っているところには使えません。そこで、セミ捕り用の網は直径15cm、深さ30cm程の布製のものを作り、それを長い竹の先につけて高いところにも届くようにしました。

庭で夕方、蚊に刺されながら幼虫のいる穴を探します。地面にポッカー開いた穴はもう幼虫が出てしまった穴で、数ミリの小さい穴があれば幼虫が中にある穴で細い草の茎を差し込んで動けばいいと確認できました。時には茎につかまって釣れることもありました。地中から幼虫が出てくるのを待って、捕まえ、すだれに這わせました。暗くしておくですだれを登って足場を固め羽化を始めます。羽化が始まれば明るくしても差し支えありませんでした。羽化による変態は驚異で見飽きませんでした。

東京の大森区山王(今の大田区山王)に住んでいました。東京とは行ってちょっと郊外の山の手、緑の多い地域でした。昭和16～18年頃(小学1～3年)のことです。私の生き物好きの取っ掛かりはセミであったように思えます。

< 谷津田・季節のたより >

小山町

- 7月 1日 夜の谷津にヘイケボタルが舞う。(松下)
- 7月 5日 畦でイヌタデが開花。林からアオバトの声がした。(高山)
- 7月12日 エノコログサ、ミゾソバ、アキノタムラソウ、チダケサシなど次々開花。オニヤンマが羽化、ニイニゼミが鳴き始める。(高山)
- 7月19日 地元の方の田んぼでコシヒカリが出穂。(高山)
- 7月22日 セリ田奥の林に、羽化したと見られるオニヤンマが3匹。(松下)
- 7月24日 みんなで植えたコシヒカリが出穂。(齊藤)
- 7月27日 アキカラマツ、ヒヨドリバナ、ヌスビトハギが開花。田んぼの上をチョウトンボが舞う。(高山)



ミンミンゼミ

下大和田

- 7月21日 モズが鳴き始める。(高山)



里山たんけんレポート

第 102 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008 年 7 月 6 日(日) 晴れ

集合早々、アオカナブンが林内に落ちていてメタリックに輝くグリーンの新やかさに感嘆しました。樹液の出ている木にはカナブン、カブトムシ、ノコギリクワガタ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、スズメバチなどが群がっていて夏本番クヌギ酒場も開店です。田んぼ脇の水路にたま網と入れたところ、メダカ、タモロコ、フナ、大きなドジョウ、アメリカザリガニなどが入りました。林縁にはシュレーゲルアオガエルの子が上陸をしていて木の葉や草の葉の上にちょこんと乗っかっていたり、畦からはニホンアカガエルの子が飛び出し、小さな子ども達に人気でした。梅雨の晴れ間の暑い日でしたが、谷津田は時折さわやかな風が吹き、心地よい観察会になりました。

(参加者 大人 14 名・子ども 6 名; 報告: 網代春男)

第 87 回 下大和田 YPP「田んぼの生きものと遊ぼう！」

2008 年 7 月 26 日(土) くもり

カエルジャンプ大会にメダカつり・・・と考えていたのですが、子どもの参加者はゼロ。仕方なく、田んぼの草取りを中心に行いました。どの田んぼもイネの間に雑草がびっしり。大きく生長して花まで咲かせているコナギを抜くのは結構力がいらす。稲株の間に顔を突っ込んで這いつくばるような姿勢での作業は楽ではありませんが、曇り空で心地よい風が吹いていたお陰で昼間で草取りを続けられました。涼しい林の中でゆっくり昼を食べた後は、せっかく「生きものとあそぼう！」なのだから魚とりをしようと、全員が網を持って水路の魚さがしをしました。メダカ、タモロコ、ドジョウ、シマドジョウ、フナ、ヤゴ、ヨコエビ、ザリガニとたくさんの生きものが見つかり、下大和田の自然の豊かさを改めて感じました。

(参加者 大人 8 名 報告: 高山邦明)

第 35 回 小山町 YPP「谷津田の生きものたんけん」

2008 年 7 月 19 日(土) 晴れ

三連休初日だったのに加えて朝からとても暑かったこともあり、参加者がとても少なかったのが残念。でも、集まったのはみんな無類の虫好き。大人も全員虫採り網を持って生きもの探しをしました。谷津にいるトンボを片端から捕まえてみると、シオカラ、オオシオカラ、ノシメ、コノシメ、ナツ、マユタテ、ショウジョウ、オニ、コシアキと 10 種類近く。谷津田はトンボの宝庫です。住んでいる場所や田んぼで縄張りの作り方に個性があってじっくり見ているとなかなかおもしろいものです。コナラの木では鮮やかな緑色のヤママコ蛾のイモムシを見つけました。手に持つとずしりと重い 7 センチくらいの大きさで間もなくさなぎになる終齢幼虫だと思います。いろいろな発見もあって暑い中ながら楽しい散策でした。

(参加者 大人 2 名、小中学生 3 名; 報告: 高山邦明)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第 36 回 小山町 YPP「かかしづくり」

稲刈りまで大切なお米を見守ってしてくれるかかしをみんなで作ります。自然観察もしますよ。

日時: 2008 年 8 月 30 日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100 円(資料代など)

第 104 回 下大和田 9 月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の花が咲き始めます。秋の虫バツタ、キリギリスの仲間も成虫になりました。初秋の谷津田を散策します。午前中はみんなで谷津を散策し、午後は田んぼの作業などをします。

日時: 2008 年 9 月 7 日(日) 観察 10~12 時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ホームページをご覧ください。電話いただければ地図をお送りします)

集合: 中野操車場向かいラーメンショップ脇に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300 円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 梅雨が明けたと思ったら連日の猛暑。街中で生活していると耐えられない暑さですが、たくさんの緑と豊かな水に恵まれた谷津はさわやかな風が吹き渡っています。アブラゼミ、ミンミンゼミと真夏のゼミが鳴き始めた一方で、田んぼの畦では秋の草花が開花しています。たくさんの日差しを浴びてぐんぐん生長し、花を咲かせている谷津田のイネ。今年の実りはどうでしょうか? (高山邦明)